

◆ 今週のコメント (感染地域、感染経路については推定を含みます。)

- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が1例(20歳代女性)ありました。感染地域は国内、感染経路は不明です。本年の累積報告数は4例となっています。
発生状況の週別推移や血清型別患者数などの詳しい情報については、下記URLを御参照ください。
○腸管出血性大腸菌感染症発生状況(衛生環境研究所ホームページ)
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000068305.html>
- ウイルス性肝炎(B型)の報告が1例(90歳代男性)あり、症状は全身倦怠感、肝機能異常です。感染地域・感染経路は不明です。本年の累積報告数は2例となりました。
- 梅毒の報告が1例(20歳代女性)ありました。症状はありません。感染地域は国内、感染経路は性的接触です。本年の累積報告数は36例となりました。

コンドームの使用や、不特定多数の性的接触を避けるなど予防策をとってください。重症化及び感染拡大を防ぐためには早期発見、早期治療が非常に重要です。
○厚生労働省「梅毒に関するQ&A」
http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/seikansenshou/qanda2.html

京都市では、平日昼間、土日及び夜間にHIV・性感染症(梅毒・淋菌・クラミジア)検査を実施しています。詳細については、下記のホームページを御覧ください。
○京都市情報館「京都市のHIV検査について(平成29年度から検査体制を変更しました。)」
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000047908.html>
- 感染性胃腸炎の定点当たり報告数は9.23(397例)となり、前週の8.09(348例)から増加しました。第18週から報告数が連続して増加しています。手洗いなどにより感染を予防しましょう。
予防方法等詳細については下記URLを御参照ください。
○健康安全課ホームページ「感染性胃腸炎に注意!!」
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000046226.html>

◆ 今週のトピックス:<百日咳>

百日咳(五類感染症)は、本年1月1日から、それまでの小児科定点把握疾患から全数把握疾患となりました。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- 二類:結核 6例(肺結核 4例, その他結核 なし, 潜在性結核感染者 2例)うち喀痰塗抹陽性 4例
【1月以降の累積報告数 144例(肺結核 61例, その他結核 35例, 潜在性結核感染者 48例)うち喀痰塗抹陽性 32例】
- 三類:腸管出血性大腸菌感染症 1例【1月以降の累積報告数4例】
- 五類:ウイルス性肝炎(B型) 1例【1月以降の累積報告数 2例】
- 五類:梅毒 1例【1月以降の累積報告数 36例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点69, 小児科定点43, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.03	2
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	9.23	397
	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.63	70
	③ 咽頭結膜熱	0.67	29
	④ 突発性発しん	0.44	19
	⑤ ヘルパンギーナ	0.40	17
眼科	流行性角結膜炎	0.20	2

【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス:<百日咳>

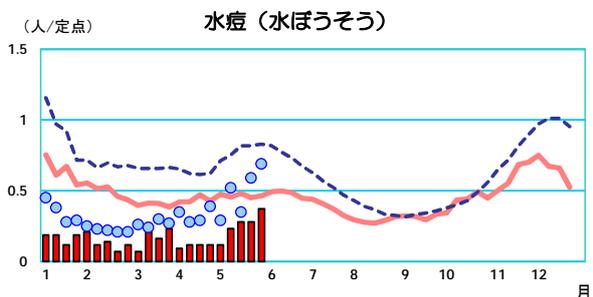
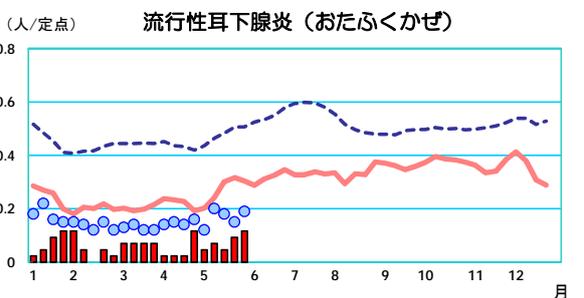
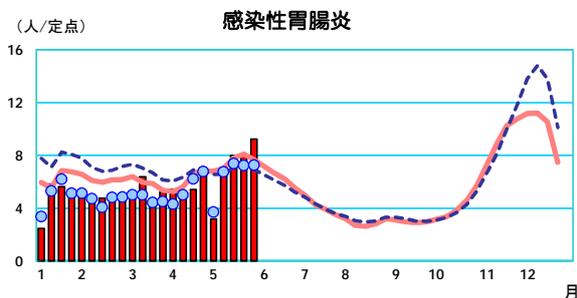
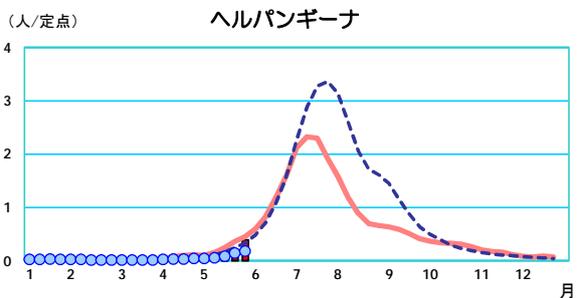
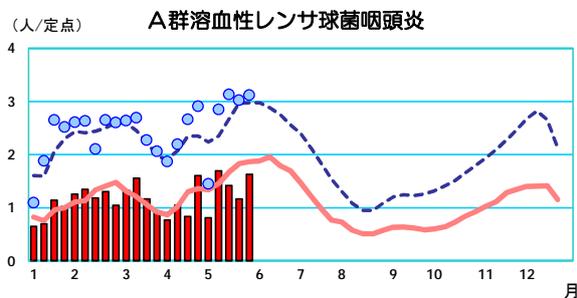
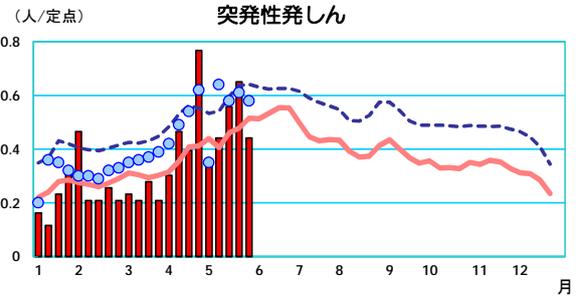
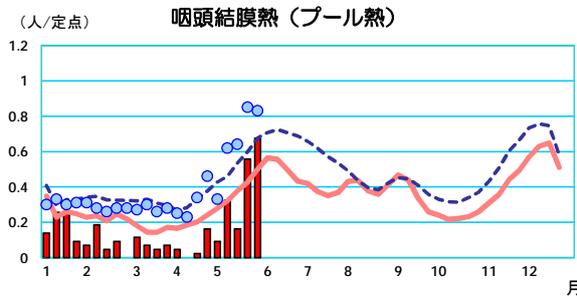
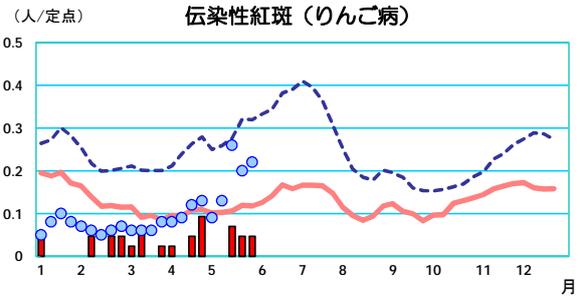
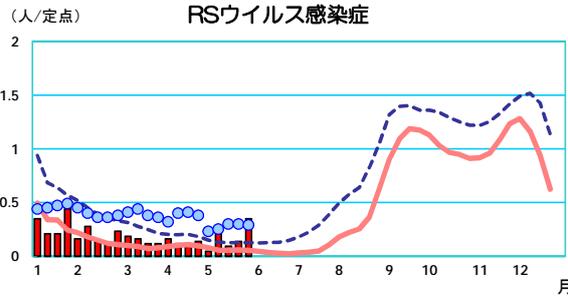
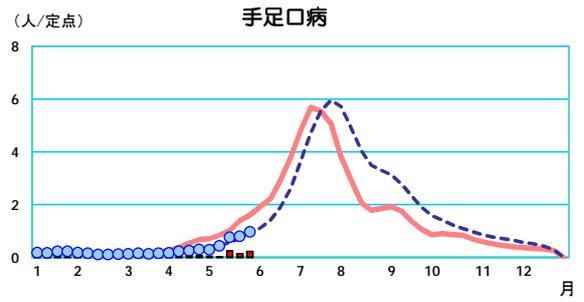
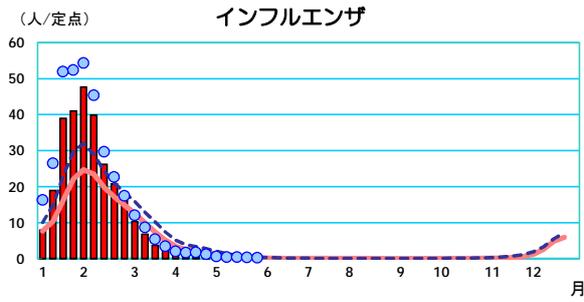
付表(疾病, 行政区別報告数 / 年齢階級, 疾病別報告数 / 週, 疾病別報告数)

(注) 京都市のデータは、平成30年6月6日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。

また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

* 感染地域及び感染経路については推定を含みます。

ヘルパンギーナ及び小児感染症の疾病別推移グラフ（平成30年）



第22週(5月28日～6月3日) トピックス: <百日咳>

百日咳(五類感染症)は、本年1月1日から、それまでの小児科定点把握疾患から全数把握疾患に変更されました。変更の背景としては、15歳以上の罹患者の割合が増加したこと、小児科定点把握疾患では成人を含む患者の発生動向が把握されにくかったこと、定点把握では症例の詳細が把握できなかったこと、臨床診断による報告のため類似他疾患を含む可能性があり、報告の特異度が高くなかったこと、定点把握は即時性に劣るため集団発生への適時対応がとりにくかったことなどがあります。

平成25年から29年までの定点把握医療機関からの報告数は、京都市では5～13例、全国ではおよそ1,700～3,000例で推移しています。本年の京都市内医療機関からの累積報告数は9例、全国では1,929例となっています。報告の基準が変更になったため単純な比較が適当とは言えませんが、京都市及び全国のいずれも昨年一年間の報告数を超えています(表1及び図1)。

全国における年齢階級別割合の内訳を昨年と比較すると、昨年は5歳未満が31%、5～9歳が22%、10～14歳が19%、15～19歳が5%、20歳以上が23%、本年はそれぞれ、11%、28%、26%、3%、32%となっており、20歳以上は23%から32%と増加しています(図2及び図3)。

全数把握疾患となって、これまでに十分把握できていなかったとされる20歳以上の報告が相対的に増えてきています。昨年までは報告する必要のなかった医療機関からの報告が加わった影響も一因と思われる、今後の動向を調査することは百日咳に関する感染症対策を考える上で重要と考えられます。

成人患者では症状が典型的でなく受診も遅れがちですが、百日咳菌は周囲への感染力が強く、症状が軽くても菌の排出があるため、感染源になる場合があります。特に生後2箇月からはじまる予防接種を未接種の新生児・乳児に対しては周りの人が感染源にならないよう注意しましょう。短い咳が連続する、咳の後に息を吸うとき「ヒュー」と音がする、咳が長引くなどの自覚症状がある場合や、職場や家族など身近にそのような症状の人がいる場合には早めに受診しましょう。

なお、青年・成人期以降の百日咳対策として、平成29年12月に沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン(商品名トリビック®)の用法及び用量が改訂され、成人への追加免疫の接種が適応になりました。詳細については以下のホームページをご参照ください。

【独立行政法人医薬品医療機器総合機構(PMDA)】

<https://www.pmda.go.jp/PmdaSearch/iyakuDetail/GeneralList/636140BA3>

表1 京都市と全国の累積報告数の推移

	累積報告数	
	京都市	全国
H25	5	1,662
H26	7	2,066
H27	13	2,675
H28	10	3,011
H29	8	1,661
定点把握から全数把握に変更		
H30(第22週まで)	9	1,929

図1 京都市と全国の累積報告数の推移

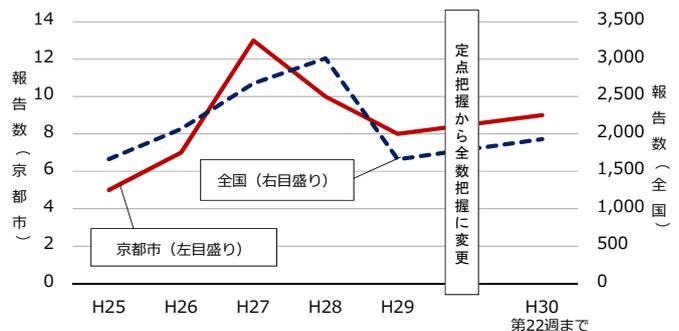


図2 全国の年齢階級別報告数(平成29年)

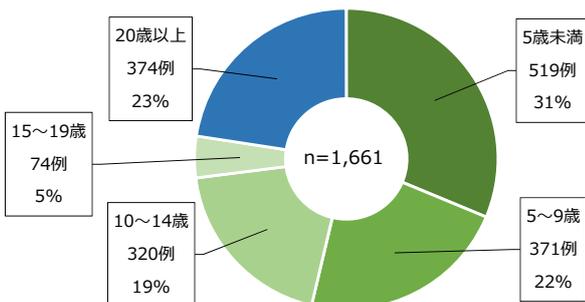
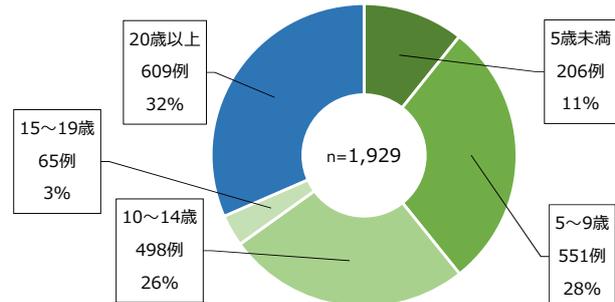


図3 全国の年齢階級別報告数(平成30年 第22週まで)



T3201

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:平成30年第22週

疾病,行政区別報告数

平成30年5月28日～平成30年6月3日

データ入手日:平成30年6月6日

	インフルエンザ (※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭A群 溶血性レンサ球菌咽 頭炎	感染性胃腸炎	水 痘	手足口病	伝 染性紅斑	突 発性発しん	ヘル パンギーナ	流 行性耳下腺炎	急 性出血性結膜炎	流 行性角結膜炎	細菌性髄膜炎 (※2)	無 菌性髄膜炎	マイ コプラズマ肺炎	クラ ミジア肺炎 (※3)	感 染性胃腸炎 (※4)
男女合計	-	1	2	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
北	-	1	2	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上京	-	-	-	3	26	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
左京	-	-	-	7	69	2	3	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
中京	-	2	-	5	6	-	2	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	-	-	-	1	19	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山科	1	10	3	15	9	3	-	-	4	3	1	-	-	-	-	-	-	-
下京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
南	-	-	4	4	34	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-
右京	-	2	12	18	70	6	4	1	3	8	-	-	1	-	-	-	-	-
伏見	-	-	3	11	114	2	1	1	6	2	2	-	1	-	-	-	-	-
西京	1	-	5	6	47	1	-	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-
京都市計	2	15	29	70	397	16	10	2	19	17	5	-	2	-	-	-	-	-

疾病,行政区別定点当たり報告数

	インフルエンザ (※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭A群 溶血性レンサ球菌咽 頭炎	感染性胃腸炎	水 痘	手足口病	伝 染性紅斑	突 発性発しん	ヘル パンギーナ	流 行性耳下腺炎	急 性出血性結膜炎	流 行性角結膜炎	細菌性髄膜炎 (※2)	無 菌性髄膜炎	マイ コプラズマ肺炎	クラ ミジア肺炎 (※3)	感 染性胃腸炎 (※4)
男女合計	-	0.25	0.50	-	0.75	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
北	-	0.25	0.50	-	0.75	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上京	-	-	-	1.00	8.67	0.67	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
左京	-	-	-	1.75	17.25	0.50	0.75	-	0.75	-	-	-	-	-	-	-	-	-
中京	-	0.67	-	1.67	2.00	-	0.67	-	-	0.67	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	-	-	-	0.50	9.50	-	-	-	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山科	0.14	2.00	0.60	3.00	1.80	0.60	-	-	0.80	0.60	0.20	-	-	-	-	-	-	-
下京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
南	-	-	1.33	1.33	11.33	-	-	-	-	0.33	0.67	-	-	-	-	-	-	-
右京	-	0.40	2.40	3.60	14.00	1.20	0.80	0.20	0.60	1.60	-	-	1.00	-	-	-	-	-
伏見	-	-	0.43	1.57	16.29	0.29	0.14	0.14	0.86	0.29	0.29	-	0.50	-	-	-	-	-
西京	0.13	-	1.00	1.20	9.40	0.20	-	-	0.40	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-
京都市計	0.03	0.35	0.67	1.63	9.23	0.37	0.23	0.05	0.44	0.40	0.12	-	0.20	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:平成30年第22週

年齢階級, 疾病別報告数

平成30年5月28日～平成30年6月3日

データ入手日:平成30年6月6日

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上	
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上		
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上		
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上					
インフルエンザ(※1)	年齢1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	
RSウイルス感染症	年齢3	15	2	5	7	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱		29	-	8	10	4	5	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		70	-	-	2	6	8	6	9	10	4	9	6	8	-	2	-	-	-	-	-	-	
感染性胃腸炎		397	1	43	66	35	40	42	41	24	19	11	16	23	6	30	-	-	-	-	-	-	
水痘		16	-	-	1	-	-	-	5	3	1	3	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	
手足口病		10	-	1	2	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
伝染性紅斑		2	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
突発性発しん		19	1	9	7	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ヘルパンギーナ		17	-	3	5	5	1	2	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
流行性耳下腺炎		5	-	-	-	-	-	2	1	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	
急性出血性結膜炎		年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
流行性角結膜炎		2	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	
細菌性髄膜炎(※2)		年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
クラミジア肺炎(※3)	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
感染性胃腸炎(※4)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

年齢階級, 疾病別定点当り報告数

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上	
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上		
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上		
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上					
インフルエンザ(※1)	年齢1	0.03	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.01	-	-	-	0.01	-	-	-	-	
RSウイルス感染症	年齢3	0.35	0.05	0.12	0.16	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱		0.67	-	0.19	0.23	0.09	0.12	-	0.02	-	-	-	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.63	-	-	0.05	0.14	0.19	0.14	0.21	0.23	0.09	0.21	0.14	0.19	-	0.05	-	-	-	-	-	-	
感染性胃腸炎		9.23	0.02	1.00	1.53	0.81	0.93	0.98	0.95	0.56	0.44	0.26	0.37	0.53	0.14	0.70	-	-	-	-	-	-	
水痘		0.37	-	-	0.02	-	-	0.12	0.07	0.02	0.07	0.05	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	
手足口病		0.23	-	0.02	0.05	0.16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
伝染性紅斑		0.05	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
突発性発しん		0.44	0.02	0.21	0.16	0.05	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ヘルパンギーナ		0.40	-	0.07	0.12	0.12	0.02	0.05	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
流行性耳下腺炎		0.12	-	-	-	-	-	0.05	0.02	-	-	0.02	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	
急性出血性結膜炎		年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
流行性角結膜炎		0.20	-	-	-	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.10	-	-	-	-	-	
細菌性髄膜炎(※2)		年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
クラミジア肺炎(※3)	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
感染性胃腸炎(※4)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3203

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:平成30年第22週

週, 疾病別報告数

データ入手日:平成30年6月6日

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ ※1)	41	14	15	16	5	2
RSウイルス感染症	6	2	9	4	6	15
咽頭結膜熱	7	4	14	7	24	29
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	69	35	73	61	50	70
感染性胃腸炎	285	137	304	344	348	397
水痘	5	5	10	12	12	16
手足口病	3	2	1	11	6	10
伝染性紅斑	4	-	-	3	2	2
突発性発しん	33	15	19	24	28	19
ヘルパンギーナ	1	2	-	3	4	17
流行性耳下腺炎	5	2	3	2	4	5
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	7	4	2	10	3	2
細菌性髄膜炎 ※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 ※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 ※4)	-	-	-	-	-	-
合計	466	222	450	497	492	584

週, 疾病別定点当たり報告数

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ ※1)	0.59	0.20	0.22	0.23	0.07	0.03
RSウイルス感染症	0.14	0.05	0.21	0.09	0.14	0.35
咽頭結膜熱	0.16	0.09	0.33	0.16	0.56	0.67
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.60	0.81	1.70	1.42	1.16	1.63
感染性胃腸炎	6.63	3.19	7.07	8.00	8.09	9.23
水痘	0.12	0.12	0.23	0.28	0.28	0.37
手足口病	0.07	0.05	0.02	0.26	0.14	0.23
伝染性紅斑	0.09	-	-	0.07	0.05	0.05
突発性発しん	0.77	0.35	0.44	0.56	0.65	0.44
ヘルパンギーナ	0.02	0.05	-	0.07	0.09	0.40
流行性耳下腺炎	0.12	0.05	0.07	0.05	0.09	0.12
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	0.70	0.40	0.20	1.00	0.30	0.20
細菌性髄膜炎 ※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 ※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 ※4)	-	-	-	-	-	-
合計	11.02	5.35	10.49	12.19	11.63	13.72

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。